

むすび ～「世界で最もイノベーションに適した国」に向けて～

本白書では、「世界で最もイノベーションに適した国」に向けて、我が国の科学技術イノベーション人材の能力が最大限に発揮できる環境について、「流動性の向上」「多様な人材の活躍」「共創の場」という3つの視点から述べてきた。

冒頭で述べたように、我が国の最大の資源は人材であり、我が国の将来を切り拓いていくためには、その力を最大限に活用していくことが不可欠である。日々、様々な知識が生み出され、流通する中で、知識を見極め、必要な知識を統合し、新しい知識・価値を創出していく、そうした高度な能力を有する人材を確保し、活用していくことが今後ますます重要になってきている。

一方、我が国では人口が減少に転じ始めており、近い将来、科学技術イノベーション人材も量的な拡大が困難になってくることは明らかである。このため、人材の持つ能力をいかに引き出していくか、すなわち人材システムの改革が今後ますます重要になってくる。

既に若手人材が博士課程への進学を敬遠する傾向が現れている。女性や外国人など新しい人材の参画もなかなか進まない。多様な人材が挑戦でき、その挑戦と努力が報われる人材システムを構築していかなければ、我が国における科学技術イノベーションが弱体化することは避けられないだろう。

研究者の流動性を高め、評価に基づく適材適所の配置を徹底する。多様な人材がその能力を最大限発揮できる環境を整備する。様々な人材の持つ知識、視点、発想等がぶつかり、刺激しあい、そして融合し、全く新しい知識・価値を創出していく。そうした中で、個人の能力を超えて持っている可能性を引き出す。こうした人材システムの構築が求められている。

重要なことは、大学や公的研究機関をはじめとした関係機関、研究者コミュニティ、そして何よりも研究者自身が、将来の人材システムの在り方を自らのこととして主体的に考え、行動していくことである。国はそのための環境を整備していく。「世界で最もイノベーションに適した国」の実現に向けて、我が国最大の資源である人材をどう活かしていくか、全体を見渡して考えれば、何をすべきか答えは自ずと出てくるに違いない。

本白書がそのきっかけになることを期待している。